

はねっと 4

仙台市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

“ぱれっと”には、仙台市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



一歩踏み出す気持ち芽生える「ワクワクビト」

辛い時を乗り越えるパワーになる 「好きなこと」のカケラを届けたい

はっぴーす! 隊 隊長 志賀 あさ美さん(30)

「辛い時、好きなことから何度もパワーをもらった」と話すのは、幼い頃に小児がんを経験した志賀あさ美さんです。病気や障がいのある子どものために、病院でのゲーム大会、ゲストを招いてのトークイベントなど、様々な遊びや体験を届ける活動をしています。入院中の子どもは、病や治療による痛み、行動の制限など我慢の連続です。また、健康な子どもと比べて色々な人と接する体験や、知らないことに触れる機会が少なく、好きなことが広がりづらい現状があります。「『他にやることがないから』と、1冊の漫画本をポロポロになるまで読んでいる子もいる」と話す志賀さん。「面白いでも、つまらないでもいい。世界を広げていくことが、好きなことを増やすチャンスにつながれば」と、活動に思いを込めます。

志賀さんは、がん治療の後遺症から背骨が大きく曲がり、中学生の時にも大手術を経験。大人になり、徐々に体の自由が利くようになっても全身の痛みは続き、健康な友達と自分を比較しては「自分には何もできない」と思ってきました。少しずつ前を向く力をくれたのは、好きなアーティストの曲や、刺激を受けたYouTuberとの出会い。芽生えた勇気から、漠然と抱き続けてきた活動への思いを周囲に発信していったことで、仲間も増えていきました。2019年5月、宮城県立こども病院で開催した初のイベントには活動に賛同したYouTuberがゲスト出演し、30人の子ども




が参加。ゲストのファンという子や、院内で楽しみを求めている子たちが目を輝かせました。「絶望していた私でも、生きる希望を届けられるかもしれない」。志賀さんはピンク色のはっぴーすに身を包み、病気と闘う子どもたちにエールを送ります。



▲ はっぴーす! 祭の様子



▲ 仙台西多賀病院での活動の様子

はっぴーす! 隊 

YouTubeチャンネル
「はっぴーす! 隊チャンネル」▶



HP▶



はっぴーす! 隊は、病気や障がいのある子どもに、様々な遊びや体験の機会を届ける活動を行っています。志賀あさ美さん(通称:あさみ隊長)を中心に13名のメンバーで活動中。団体名は、「Happy」と「Pie」を合わせて、はっぴーす。「一人ひとりが欠けてはいけない大切な存在」という意味が込められています。コロナ禍の2021年10月には、車椅子YouTuberやヒップホップアーティストを招いてのオンラインイベント「はっぴーす! 祭」を開催。2022年1月にはトークイベント「キラキラしなくてもいいから、自分が楽しく。」を配信しました。アーカイブはYouTubeで配信中です。



サポセンを活用した人たちから「私のあしあと」

今の自分にできる社会貢献を

2021年2月。聖ウルスラ学院英智高校2年生だった私は、ボランティア相談のためサポセンを訪れました。社会のさまざまな課題に興味があるものの、ボランティア活動には種類がたくさんあり、何をすべきか分からなかったのです。サポセンのスタッフと話しながら、特に関心の高い分野を整理し、自分の興味に合った団体の資料をいくつかピックアップしてもらいました。

私は、資料の中の「ハガキ回収で国際貢献」という記事に注目。バングラディッシュでは、他人の家で家事使用人として働く少女たちがいて、学校に行くことができない現状があるそうです。不要になった年賀はがき、書き損じはがきを国際協力団体に送ると、少女たちの支援や児童労働のない社会づくりに役立てられる仕組みが紹介されていました。「部活動で忙しい今でも取り組める！」学校のみんに協力してもらえれば、より多くのはがきを集め



▲1回目(2021年2月～7月)全校生徒、先生から寄せられたはがきと使用済み切手

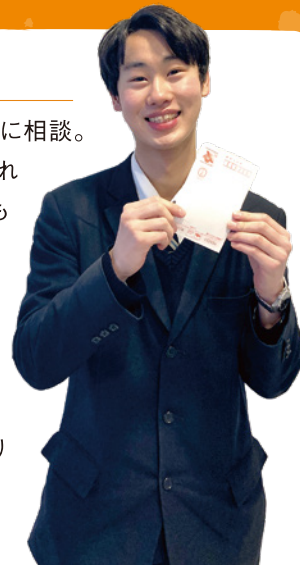


▲2回目(2022年1月～3月)年賀状の季節に合わせて実施。はがきの他、CD、DVD、プリペイドカード、本なども集めた

ることができると思え、まずは先生に相談。

先生が職員会議で取り上げてくれたことで、ウルスラの小・中学校も含めた全校生徒に校内放送で呼びかけることができました。回収や分別には、部活動の仲間たちも協力してくれました。約5か月間で810枚のはがきが集まり、団体に送ると43,000円の寄付になりました。はがき10枚(約500円相当の寄付)で、バングラディッシュで家事使用人として働く少女の支援センターを1日運営することができます。少女たちの笑顔がさらに増えることを願って、年明けにも回収を実施しました。

そもそも私が社会課題に興味をもち、ボランティア活動に踏み出したきっかけは、クジラが海に漂流したプラスチックを誤飲して死んでしまった動画を見て、「何か自分にできることはないか」と考えたからでした。大学では、海洋プラスチック環境汚染に関連した有機化学を学びます。これからも日本や世界の諸問題について学び、さまざまなボランティア活動をしていきたいです。(藤原巧翔さん 10代)



▲「将来は青年海外協力隊に参加したいです」と藤原さん



活動に役立つ書籍を紹介「お役立ち本」

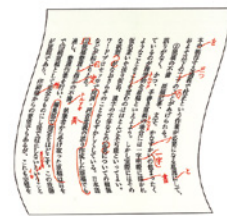
実例 校正教室

この本は「校正」の指南書です。校正とは、より正確に人に伝えるために文章を精査し、整える作業を指します。ものを伝えるとき、間違った情報を載せてはいけなく、思いを詰め込みすぎても読みづらく、結局何が言いたいのかわからなくなることがあります。そこで「ちゃんと伝える」ために校正をします。校正のしかたや見るべきポイントのほか、言葉選びに迷った時のヒントなども詰まった一冊。伝える力を上げたい方にオススメです。

編集 日本エディタースクール 発行 日本エディタースクール出版部

実例 校正教室

日本エディタースクール



仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 4月13日(水)、27日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者: 特定非営利活動法人
せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2022年4月1日

デザイン PEACE Inc.

[Twitter]

@SCSC4CA

[YouTube]

サポセンちゃんねる

